

東京エレクトロン「知的資本・無形資産」戦略：3年間の進化

主要定量指標 (2023)



研究開発投資：
1,911 億円



特許保有件数：
21,645 件



エンジニア比率：
67.6%

研究開発拠点：14箇所

2023年：価値創造の「インプット」



製品競争力を支える 資源としての位置づけ

知的資本はR&DやIPマネジメントの各層として記載され、主に「競争優位の根拠」として役われていました。

主要定量指標 (2024)



研究開発投資：
2,028 億円



特許保有件数：
23,249 件



エンジニア比率：
68.1%

研究開発拠点：14箇所

2024年：「重要な資産」への昇格

マテリアリティの細分化と バリューチェーンへの展開

知財を「中長期的な企業価値向上における重要な資産」と明記し、サービスや顧客満足度、情報セキュリティへと範囲を広げました。



無形資産の質的進化：データ・AI・顧客共創

Shift Leftによる顧客共創



顧客との複数世代にわたる ロードマップ共有

開発の初期段階からリソースを投入し、顧客の採用課題を早期に解決することで、知的資本の循環を加速させています。

データ・AIによるR&Dの高度化



装置データとAIが 研究開発の「増幅装置」に

マテリアルズ・インフォマティクスや生成AIを活用し、材料選定や知計の自動化、熟練者の知見のデジタル化を推進しています。

サービス資本としての活用



累計出荷9.6万台の 装置データが価値を生む

膨大な装置稼働データとサービスノウハウを統合し、予防保全や運用保守などの畜付加価値サービスへ転換しています。



研究開発投資：
2,500 億円
(5年間で1.5兆円以上の計画)



特許保有件数：
24,996 件
(業界グローバルNo.1を維持)



エンジニア比率：
68.7%
(従業員数19,573名)
研究開発拠点：16箇所

2025年：「独立した戦略セクション」へ

5つ目の強みとしての 構造化とガバナンス

知財・無形資産が独立ページとなり、特許ポートフォリオを経営上の重要基盤と定義。取締役会への報告体制も整備されました。



今後の課題と機会

課題：特許以外の無形資産の可視化



データ資産やソフトウェアの KPI化が課題

特許件数以外の、サービスナレッジや顧客共創課題などのように定量化するかが、今後の戦場の説得力を左右します。

機会：精工程から後工程へのノウハウ転用



先端パッケージング領域への 知的資本の転換

前工程で培った成膜や塗布の技術をボンディング設置後の後工程分野へ転用し、新市場開拓の柱にする機会があります。